

狭山財政塾

市の財政は、家庭でいうと家計簿のよつなものです。ここでは、市の財政をまちの家計簿として身近に感じる事ができるように、市の財政状況について具体的に説明します。



Q また大阪狭山市の財政状況は厳しいの？

A 平成17年度の一般会計決算は、2億8146万円の黒字となりました。ただし、これが地方交付税の不足を補うため、6億6020万円の借り入れ(臨時財政対策債)を行ったうえでの数字であることを考えると、まだ厳しい財政状況にあると言えます。

ます。

経常収支比率をもとに、これまでの推移をみると、全国市町村平均と比べ高い水準が続いています(経常収支比率とは、財政状況を表す目安の一つで、健全であると言われる数値は70%です。数値が大きくなるほど財政構造の硬直化が進むこととなります)。

そこで、平成15年度に「財政健

全化フレームを策定し、財政の健全化に努めてきました。その結果、平成16年度まで数値は少しずつではありますが下降してました。

しかし、今回の平成17年度決算では、支出の減少よりも収入の減少の方が上回ったため95.5%となり、少しではあります

Q このくらい借金と貯金はあなせう。

が上昇する結果となっております。これ以上の上昇を抑えるため、今後も収入・支出両面での見直しを行いながら、財政の健全化を推進していく必要があります。

A 平成17年度の普通会計決算(一般会計、西山霊園管理・土地取得特別会計の合計)では、借金(地方債残高)は217億1461万円、市民1人当たり37万7908円、貯金(財政調整基金残高)は19億2300万円、市民1人当たり3万3467円となっております。

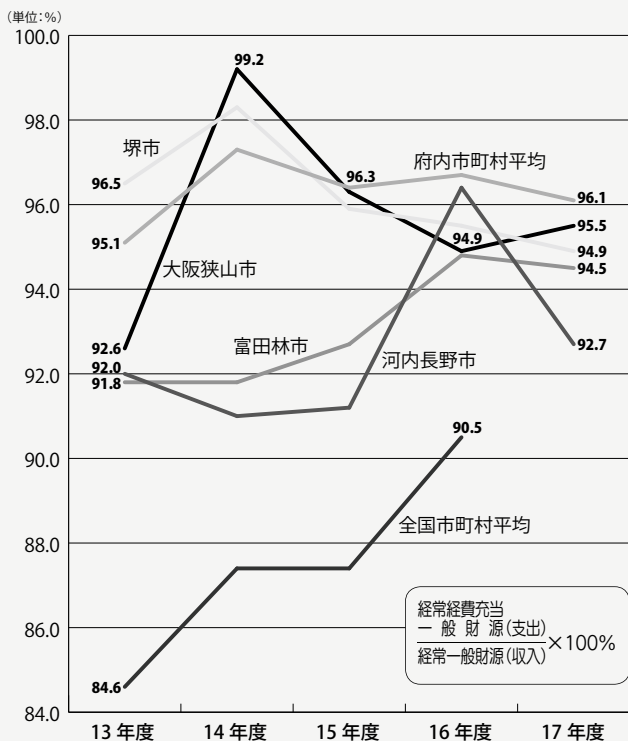
借金は、質の高い公共サービスを提供するため、施設の建設や道路の整備といったまちづくりに使われてきたものです。新たな債務を抑制し、計画的な返済を行った結果、前年度より6億7476万円、市民1人当たり1万2124円減少しました。

貯金は、財政の健全化に取り組んで捻出した財源を将来へ積み立てたもので、前年度より1億7300万円、市民1人当たり2981円増加しました。

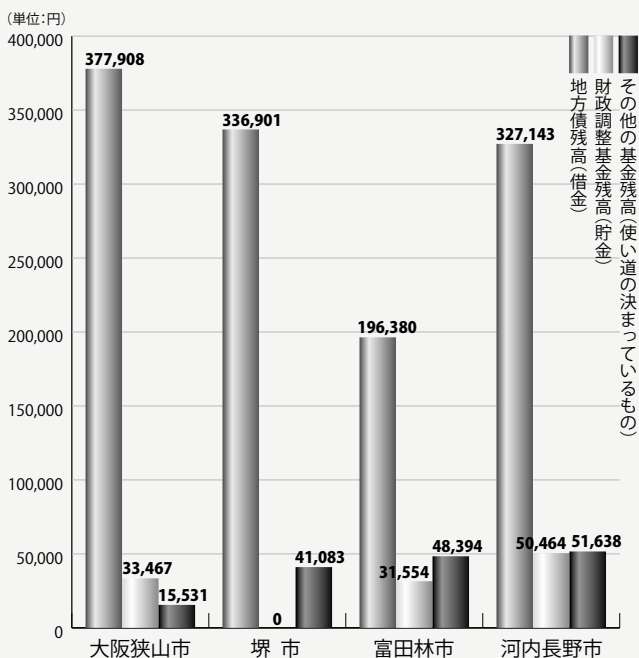
Q 支出は市民1人当たりいくらにかかっているの？

A 平成17年度の一般会計決算を平成17年度末現在の人口(5万7460人)で割ると、市民1人当たりの支出はそれぞれ左図のようになります。一般会計決算総額では、市民1人当たりの支出は28万9165円です。

過去5年間の経常収支比率の推移と比較



平成17年度の市民1人当たりの地方債と基金残高の比較



市民1人当たりの決算額は28万9,165円です

教育費 40,661円	土木費 38,181円	農林水産業費 1,557円	民生費 79,772円	議会費 3,846円
公債費 40,595円	消防費 11,300円	商工費 816円	衛生費 23,215円	総務費 49,027円